

広がりみせる漢方薬の処方

正しい知識を身に付けて適切な使用に導く



公益財団法人
日本薬剤師研修センター
理事長
豊島 聡氏

現在、医療用漢方薬は148処方678製品、一般用漢方製剤は294処方2367製品が承認されている。がん治療にも漢方薬は併用され、薬局には数多くの漢方製剤が並ぶ。「一部の医師が使う、特別な薬」ではなくなっているのが現状である。

しかし、だからこそ、「正しい情報、適正な使用が重要です」と、日本薬剤師研修センターの豊島 聡氏は訴える。

以前は長い経験に基づき、“証”を見て患者さん一人ひとりの体質に合った漢方薬が処方されてきたが、最近では西洋薬と似た感覚で漢方薬を出されることも少なくない。

そうした状況において、「薬剤師が知識を持って、正しい情報を提供し適正使用を推進していく必要があります。」と訴える。

漢方薬・生薬認定薬剤師は、そのための知識習得に適した研修プログラムを用意しているという。

認定者は2786名 インターネットでの受講が人気

漢方薬・生薬認定薬剤師とは、漢方薬・生薬に関する専門知識を取得し、能力と適性を備えた薬剤師であることを認定する制度である。2000年から研修プログラムがスタートして、現在は2786名(平成26年度末)の薬剤師が認定されている。

漢方薬・生薬認定薬剤師を取得するためには、1年間に9回の講義と、1回の薬用植物園で行う実習に参加する必要がある。

講義は、①東京会場での座学集合教育②東京・名古屋・神戸・福岡(平成27年度)でのビデオ集合研修③インターネット研修の3種類の受講体制が用意さ

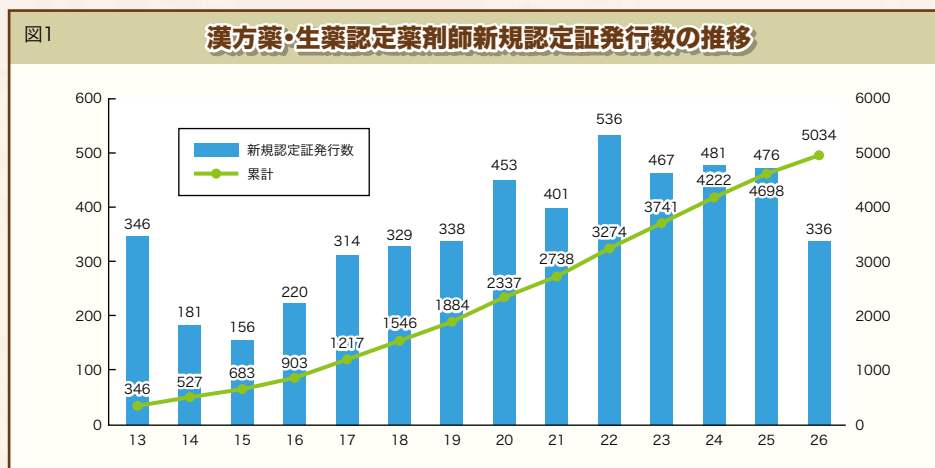
れており、受講者の都合に合わせて選ぶことができる。

最近の傾向としては、個人が自宅で学習できるインターネット研修の受講者が増えているという。

いずれの講習も生薬学などの専門家と

漢方を専門とする医師及び薬剤師を講師陣としている。

漢方薬・生薬認定薬剤師は3年ごとの更新制となっており、3年の間に必須研修15単位、その他の研修15単位の計30単位を取得することが更新要件となってい



る。また、毎年最低5単位を取得する(必須研修・その他の研修はどちらでもよい)ことが原則とされている。

漢方薬の汎用化に伴い 一般の薬局薬剤師の興味を引く

年によって差があるが、漢方薬・生薬認定薬剤師の講習は、毎年500～700名が受講している。新規認定証発行数も毎年500枚前後と安定して伸びてきている。また、複数回更新する薬剤師も少なくない。(図1・図2)

認定薬剤師の内訳は、薬局の薬剤師が50%以上だが、意外なことに漢方薬局は少ない。病院薬剤師の取得も、約30%ある。(図3)

「漢方薬が特別なものではなく、薬局では一般用製剤として汎用されてきているのだと推測します。また、使用する医師も、漢方の専門医だけでなく幅広い医師が漢方薬を使っている現状を反映した結果だと考えます」。理事長の豊島 聡氏はそう分析する。

漢方薬は西洋薬を補完する存在 より重要となる正しい情報の提供

漢方エキス製剤は2006年から日本薬局方に収載され、現在生薬が215品目、漢方処方エキス製剤は27品目収載されている。

医療用漢方薬は148処方678製品、一般用漢方製剤としては294処方2367製品が承認されている。

「漢方薬は、西洋薬を補完するものとして、これからも大きな役割を果たしていくでしょう。以前は、経験のある医師や薬剤師が、その経験に基づいて漢方薬を使っていたものを処方していたから、副作用も少なかったといえます。現在、幅広い診療のなかで漢方薬が使われ、薬局でも数多くの一般用漢方製剤が置かれているなかで、

図2 漢方薬・生薬認定薬剤師認定証発行数の推移

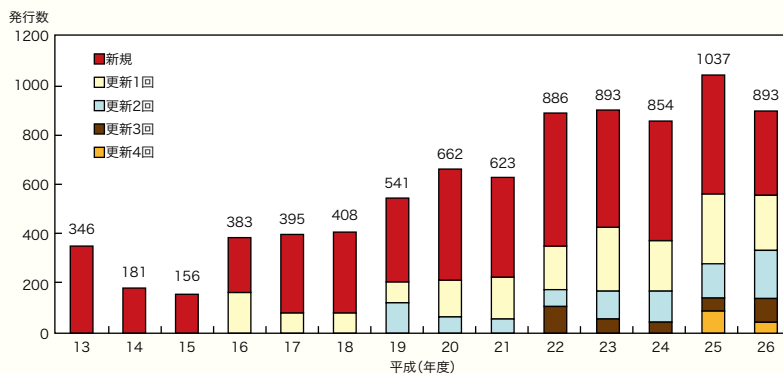
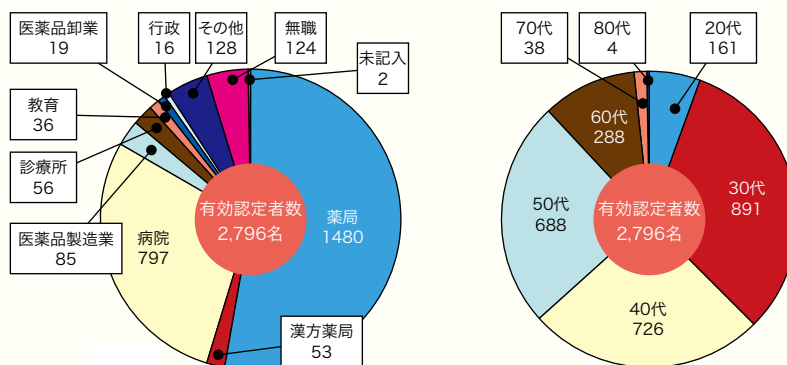


図3 漢方薬・生薬認定薬剤師 職能別・年代別内訳(平成27年5月31日現在)



正しい情報を伝え、正しく使っていただくことがより一層重要になっています。だから、薬剤師の役割として、西洋薬の知識とともに、漢方薬の知識も身に付けてほしいと思います」豊島氏はそう訴える。

漢方薬・生薬認定薬剤師には、「国内で使われている漢方薬についての知識の習得や、漢方に用いる原料生薬を正確に把握し、生薬の品質管理に関する知識を修得すること」や、「生薬製剤に関する品質管理の内容を掌握すること」、「生薬および薬用植物に関して広い知識を持ち、薬局などにおいてこれらに関する相談ごとの的確に対処すること」などが期待される。

そのような知識習得に対応できる研修プログラムが組まれている。(図4)

今年からは研修テキストを改編し、より役立つ新たな情報・知見も加えた。

「漢方薬・生薬に興味を持つ薬剤師が、この認定を取得し、それを足掛かりとしてさらに研鑽を積み業務に生かしていった欲しい」豊島氏は、そう呼びかけた。

図4 平成27年度「漢方薬・生薬研修会」
講座プログラム(予定)
1講座70分 (抜粋)

- 挨拶・認定薬剤師概論とガイダンス(30分)
- 漢方薬・生薬認定薬剤師に必要な生薬学、薬用植物学
- 漢方薬について(医学史から見た漢方)
- 漢方概論
- 生薬の鑑定(化学)
- 医療における生薬と薬用植物
- 生薬の修治
- 日本薬局方の歴史と生薬の基原植物
- 食品薬学ー薬食同源の視点から食品を科学するー
- 漢方・生薬製剤の流通について
- 生薬の化学成分:配糖体
- 最近の生薬原料の流通状況について
- 皮膚炎をおこす植物
- 植物と遺伝子ー生薬のDNA 鑑別ー
- 生薬の鑑定(形態)
- 生薬成分の化学:ポリフェノール
- 文献からみた漢方ー傷寒論の紹介と読み方
- 漢方各論ー神経・精神疾患ー
- 漢方各論ー消化器疾患ー
- アルツハイマー治療に有効な漢方処方(帰脾湯)
- 漢方薬と免疫調節作用
- 内分泌に有効な漢方処方
- 植物成分の生合成